

Comparison of Uveitis Incidence by Medication in Juvenile Idiopathic Arthritis and Implications for Screening

Henry S Bison, Timothy M Janetos, Hans M Gao, David L Zhang, Jessica Song, Brenda L Bohnsack

Am J Ophthalmol. 2023 Mar;247:70-78.

doi: 10.1016/j.ajo.2022.11.010.

特発性関節炎（JIA）は小児で最も頻度の高いリウマチ性疾患です。JIA では関節外症状として、ぶどう膜炎が 10-20%程度にみられます。JIA のぶどう膜炎では自覚症状が乏しいことが特徴にあげられ、無自覚のまま炎症が持続し、帯状角膜変性や白内障、緑内障などを引き起こすことがあります。

この研究では 184 例の患児を長期的に観察して、ぶどう膜炎の発症率などを後ろ向きに検討しています。その結果、21 例(11.4%)の患児が新規にぶどう膜炎を発症していました。メソトレキサート、エタネルセプトによる治療ではぶどう膜炎の発症率に違いはみられませんでした。アダリムマブやほかの生物学的製剤で治療されている患児にぶどう膜炎はみられませんでした。

アダリムマブは、本邦でも難治性の中間部、後部、または汎ぶどう膜炎に承認されており、ぶどう膜炎に対する消炎、発症予防効果が期待されます。一方でエタネルセプトは同じ TNF 阻害薬ですが、眼炎症に対する効果が乏しいと考えられており、本研究の結果もそれと同様なものとなりました。

（文責：横浜市立大学 竹内正樹）